

案件（３）豊田市地域公共交通計画の令和６年度の実績報告について〈協議〉

1 計画指標の状況

・現計画の計画期間は、令和４年１０月から令和８年３月まで

【１日あたりの公共交通利用者数】 (単位：人/日)

		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7 目標
1日あたりの公共交通利用者数		93,620	60,843	66,989	73,372	79,618	82,050	77,000
内 訳	鉄道(名鉄・愛環・リニモ)	74,053	50,116	52,564	57,458	62,728	65,183	
	基幹バス (おいでんバス・名鉄バス)	14,728	8,317	11,795	12,909	13,625	13,612	
	地域バス	886	352	620	610	702	711	
	タクシー	3,953	2,058	2,010	2,395	2,563	2,544	

⇒コロナ禍後の移動需要の回復に伴い、毎年度増加傾向にあり、令和５年度時点で目標値に到達。特に、基幹交通である鉄道と基幹バスの回復が顕著である。一方で、タクシー利用者数の回復が鈍いことから、コロナ禍を経て、ビジネス需要や会食回数に変化が生じたことが考えられる。

【おいでんバス等の利用者１人あたりの市の財政負担額】 (単位：円/人)

		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7 目標
おいでんバスの利用者１人あたりの市の財政負担額		229	392	341	312	278	262	280
地域バス・地域タクシーの利用者１人あたりの市の財政負担額		1,260	1,819	1,725	1,595	1,574	1,688	1,300

⇒利用者数の増加により、おいでんバスの利用者１人あたりの市の財政負担額は減少し、目標値に到達している。地域バス・地域タクシーは、利用者数が伸び悩んでいる一方で、運行経費が増加しているため、目標達成には至っていない。

2 令和６年度の個別施策の実施状況

- ・全３２の個別施策を展開、その中でも「生活交通の再構築」を重点施策として位置付け。
- ・以下は、令和６年度に取り組んだ主な事業である。

施策群	R 6 年度の主な取組実績
基幹バスの運行	・運行経路の変更等（さなげ・足助線、稲武・足助線、旭・足助線） ・トヨタ自動車（株）と連携し、車いすワンタッチ固定装置の実証導入
交通環境の整備	・豊田市駅西口周辺整備工事に伴う停留所位置の見直し
公共交通の利用促進	・豊田市高校生等バス通学定期券購入費補助金の制度化（令和７年４月から運用開始） ・とよた愛環フォトコンテストの開催（応募総数 37 件） ・豊田市中央図書館における公共交通企画展示（１か月間） ・おいでんバス乗り方教室の実施（小学校 3 回、高齢者クラブ 1 回） ・おでかけパス 70 の発行（2,131 枚／前年度比 149 枚増） ・包括連携協定企業との連携事業実施（メグリア店舗でのデジタルサイネージ掲載） ・おいでんバスオリジナルグッズの作成（ボールペン、キーホルダー）
生活交通の再構築 （★重点施策）	・豊田市共助交通支援事業の運用開始（令和６年 7 月～） ・共助タクシーへの運行支援（高美町、大林町） ・移動支援サービス専用保険料の支援（高美町） ・コミュニティ・カーシェアリングの本運行及び導入支援（水源、平山、堤町） ・ボランティアドライバーに対する安全運転講習会の開催 ・共助交通シンポジウムの開催（令和６年 9 月） ・自家用有償運送（公共ライドシェア）の導入検討（敷島）

3 今後に向けて

- ・個別施策は順調に実施。
- ・計画指標の利用者数は、令和５年度時点で目標値に到達しているが、今後も引き続き利用者のニーズを注視しながら、高齢者や学生の利用者増に向けて利用促進施策を実施する。
- ・共助交通については、令和６年度から補助金などの支援メニューを用意し、地域団体へ各地の取組を紹介することで、取組の意義が浸透し、徐々に活動が増えている。今後は、地域が主体的に取組を検討できるよう共助交通のガイドブックを作成し、複数の選択肢から地域にあった移動手段を構築できるようにする。

別 紙

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

豊田市（区町村）地域公共交通計画の評価等結果（令和6年4月～令和7年3月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
●1日あたりの公共交通利用者数 （※鉄道、基幹バス、地域連絡バス、地域バス、地域タクシー、一般乗用タクシーの利用者数合計⇒目標値：77,000人/日（R7年度）	●基幹バスの運行及び改善 ●地域バス、地域タクシーの運行及び改善 ●おいでんバス高齢者向け割引定期券の販売 ●豊田市高校生等バス通学定期券購入費補助金の制度化（令和7年4月から運用開始） ●豊田市中央図書館における公共交通企画展示の実施 ●おいでんバス乗り方教室の実施	●鉄道・バス・タクシー事業者の有する乗降データを使用	【達成状況】 ●1日あたりの公共交通利用者数：82,050人/日（R6年度） 【分析】 ●鉄道、バスは、毎年度増加傾向にあり、コロナ前の令和元年度と比較して約90%回復している。一方タクシーは約64%となっており回復が鈍い。 ●いずれもコロナ渦の生活様式の変化等により、中長期的に見れば利用者数の伸びに影響が出ている。	●コロナ禍後の移動需要の回復により、計画指標を上回る順調な回復を見せた。今後も引き続き利用者のニーズを注視しながら、利用者増に向けて利用促進施策を実施していく。 ●高齢者向け割引定期券の発行に加え、令和7年度から高校生を対象にしたバス通学定期券の購入費補助を新たに実施することで、より公共交通を利用しやすい環境づくりに取り組む。 ●令和8年4月1日の豊田市駅西口周辺整備工事完了を見据え、交通事業者と連携して路線改編を実施し、運行の効率化・ダイヤの見直しを図り、利便性の高い公共交通ネットワークの構築を目指す。	
●おいでんバスの利用者1人あたりの市の財政負担額⇒目標値：280円/人（R7年度） ●地域連絡バス及び地域内交通の利用者1人あたりの市の財政負担額⇒目標値：1,300円/人（R7年度）		●バス、タクシー事業者の有する乗降データを使用 ●令和6年度実績の運行負担金	【達成状況】 ●おいでんバスの利用者1人あたりの市の財政負担額：262円/人（R6年度） ●地域連絡バス及び地域内交通の利用者1人あたりの市の財政負担額：1,688円/人（R6年度） 【分析】 ●利用者数の増加により、おいでんバスの利用者1人あたりの市の財政負担額は減少し、目標値に到達している。 ●地域バス・地域タクシーは、利用者数が伸び悩んでいる一方で、運行経費が増加しているため、目標達成には至っていない。	●重点施策である生活交通の再構築に向けて、コミュニティ・カーシェアリングなどの共助交通への支援事業を推進していく。併せて、地域が主体的に取組を検討できるよう共助交通のガイドブックを作成し、複数の選択肢から地域にあった移動手段を構築できるようにする。 ●引き続き、地域バス運営協議会等の関係機関と連携し、運行改編案を協議する。	

（記載に当たっての留意事項）

- ・ 本様式中、表題の「（○年○月～○年○月）」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「－」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。